

新たなICT・AI技術の活用について

平成30年7月31日

公募技術の応募状況及び評価結果

公募要件	<p><募集した技術> エリア観光渋滞対策の実装に資する技術で、平成30年度に実証実験が可能であり、かつ、実証実験後に実装可能もしくは実装可能と見込まれる技術</p> <p><公募受付期間> 平成30年1月23日（火）～平成30年2月20日（火）</p> <p><応募資格> 「民間企業」、「大学及び研究機関」又は「企業共同体」</p>
------	--



22団体43技術の応募



○先行して活用する
「人・車の流動を分析する技術等」
⇒17技術を実験可能と評価



○「予測技術」と「対策技術」等
⇒15技術の評価を継続



○技術の提案者と実験の具体内容について調整し、整った技術から
現地での実証実験を実施

交通マネジメントに活用可能な新技術一覧 （「人・車の流動を分析する技術等」関係）

評価技術名	技術の概要
スマートフォンによる位置情報を用いた総合的人流解析技術	基地局、GPS、Wi-Fi通信から得た携帯電話利用者の位置情報を複合し、面的な人の流れとして把握する技術
スマートフォンユーザーの位置情報ビッグデータと画像解析型センサーの組合せにより人の動きを面的に把握・集約する技術	スマートフォンから得られる高頻度高精度GPS情報と主要箇所に設置する人の数を数値化するセンサーから、地域内の人の動きを面的に把握・集約する技術
リアルタイム観測に基づく環境適応型交通状況予測シミュレーション	カメラとWCN情報の収集装置から得られる情報をもとに交通シミュレーションを実施し、面的な交通状況を把握する技術
観光ガイドアプリによる分散誘導と解析	観光ガイドアプリを通し、利用者属性や移動情報等を収集し、渋滞混雑情報として可視化する技術
観光情報提供アプリを利用した人流データの収集	観光スポット紹介アプリを通し、利用者のGPS位置情報から移動ルート、滞在時間などを継続的に収集する技術
携帯アプリを用いたエリア動線解析技術	観光情報提供アプリを通し、利用者のGPS位置情報からエリア内の行動経路を把握する技術
行動分析技術	携帯GPSやプローブ等の様々なデバイスから取得した位置情報から起終点、経路、手段、人数等を判定する技術
プローブビューアー開発技術	携帯GPSやプローブ等の様々なデバイスから取得した位置情報やそれらから判定された起終点、経路、手段、人数等を可視化する技術
Wi-Fiパケットセンサによる人流把握技術	スマートフォンがWi-Fiに接続する際に得られるWCN情報をセンサにより追跡し、人の流動、滞留として把握する技術
WCN情報収集装置を活用した面的な交通状況把握	路側にETC車載器のWCN情報の収集装置を設置し、車両の経路や滞在時間等を把握する技術
人物検知技術	一般的なカメラの映像をAIによって解析し、人の動きを把握・集約する技術
「収集」人・車の現況把握(モニタリング)する技術	Webカメラの映像から抽出する人・車の交通量、人の動き等を把握する技術
映像センシング技術(人数・混雑度)	一般的なカメラの映像を解析し、映像上に指定した検知エリアに含まれる人数、混雑度を混雑した状況において自動計測する技術
映像センシング技術(人流・車流)	一般的なカメラの映像を解析し、映像上に指定した検知エリアに含まれる人と車の複数方向別の数を自動計測する技術
「駐車場満空検出装置」(駐車場IoT技術)	駐車場の満空表示を確認するセンサーによりWeb上で駐車場の混雑状況を把握する技術
携帯通信を活用した流動把握技術	観光案内板等に取り付けたWi-Fi、beaconへのスマートフォン等のアクセスログにより、エリア内の人の密度やアクセスポイント間の移動を把握する技術
自動行動トレース技術	ETC車載器のWCN情報の収集装置とETC2.0路側機により得られる情報を組合せ車の流動を把握。また、AIカメラにより主要観光スポットの混雑状況やスポット間の移動を把握する技術